

◎春山を楽しもう

5月になると下界は春の最盛期は過ぎるが、アルプス等では雪も締まって、歩きやすい春山の季節である。でも気をつけなくてはならないのもこの季節であり、時により真冬並みの春の嵐で遭難する場合も多々発生している。今回はその辺も踏まえて考えてみよう。安全登山で春山を楽しもう。

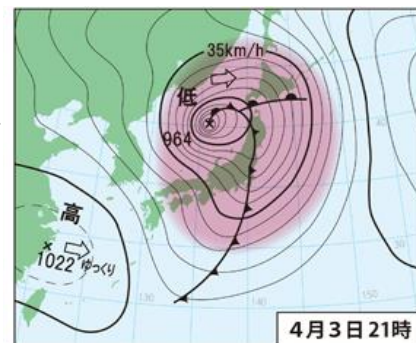
A. 知っておきたい気象状況

①「春の嵐」、「メイストーム」

3月から5月にかけて表題のように山登りも楽しい季節になる。しかし低気圧が急速に発達して台風並みの暴風や猛吹雪が発生する場合もあり十分に注意する必要がある。これを「春の嵐」又は「メイストーム」と呼ぶ。

この特徴は寒気と暖気がぶつかって発生する温帯低気圧が急速に発達するもので右図のように台風に比べ非常に広範囲に強風が吹くことである。

5月の富士山ではこの春の嵐によりブルトーカーに固定したテントがブルごと移動してしまったという信じられない事実も有る。この気象情報は事前に把握できるので、十分な注意と、登山の中止等の対応が必要である。



②昼と夜の温度差

この時期夏と冬が同居する時期でもある。衣服に関しても両者に対応した装備が必要である。重ね着を基本として、特にテント山行に関しては夜間の冷え込みに注意を要する。また紫外線も強烈なので特に雪の有る山に登る場合は日焼け止めが必需である。人によってはタラコ唇や過度な雪焼けに見舞われる。

B. 装備等の対応や注意事項

①装備の濡れ対策

雪山登山の場合、装備がどうしても雪解けにより濡れてしまう。完全防水の手袋は装備したい。登山靴、スパッツ類、ウェア類も防水の効いた物、十分な防水処理が必要である。サングラスも必ず持参する。

②歩行上の注意事項

この時期、必ずしも雪が締まってはいないから、足がズボット沈む場合がある。ある程度やむを得ないが、踏み跡を充実に辿れがこれを防げる。沈まないと思って踏み出した足が沈むと倍の疲労感があり、注意する。また全層雪崩にも注意が必要であり、谷筋を歩かざるを得ない場合は十分な注意が必要である。雪が多い山では雪庇の踏み抜きに注意する。

C. 南北アルプス等の状況

①北アルプス

基本的にどのエリアも入山可能であるが、しっかりしたリーダーの下で行動して欲しい。入山者が多い後立山や槍穂高周辺は別にして雪上で登山コースを見失う事が多いからである。地図読みをしっかりする事。

②南アルプス

北に比べれば入山者が少なく、ルートファインディングが重要な要素である。またコースが長く、山小屋も期待できない為、予備日、食糧の確保は重要である。

③上越地域

名高い豪雪地帯では、尾根上のコースを取る場合、雪庇の崩落が怖い。まずは樹林の際を通る事が鉄則である。また全層雪崩にも注意が必要で上部からのブロック雪落も怖い。

④丹沢等、近隣の山

少なくとも山の南面は雪も解けているが、北面は雪が残っていたり、氷化しているので、軽アイゼンは携行しよう。またスパッツも必需であろう。

D. 春山での楽しみ

①眺望を楽しむ

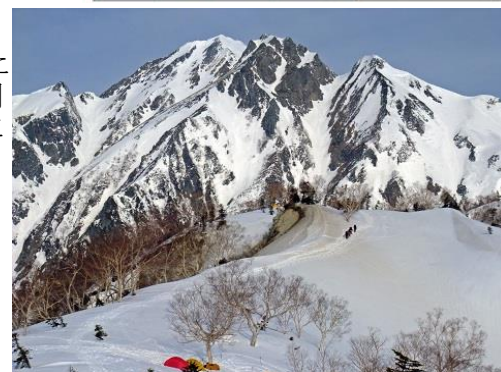
残雪と、岩肌のコントラストが最も美しいのがこの季節である。記憶に残る素晴らしい写真を撮って欲しい。状況にもよるが空は少な目が迫力がある。雲や登山者、花なども画面に入れながら奥行の有る写真を撮ろう。

②花を楽しむ

今まで眠っていた高山植物が一斉に顔を出す。雪が消えるとショウジョウバカマが顔をだし、ミツマタが雪をかぶりながら咲きだす。九重連山ではミヤマキリシマが咲き誇る。詳しくはNo16を参照

③雪山の基礎技術を学ぶ

フカフカ雪ではアイゼン、ピッケルも効きが悪い。この時期これらの使い方の基礎をしっかりマスターしよう。私の持論であるがいくら滑落訓練をするよりも、雪面にアイゼンをフラットに置く歩行訓練の方が重要である。



5月の遠見尾根、五竜岳



5月の南ア、聖岳



丹沢のミツマタ



ミヤマキリシマが美しい九重